

【担当教員】

池野 正晴

【教員室または連絡先】

非常勤講師 (ikenom@zpost.plala.or.jp)

【授業目的および達成目標】

〔授業目的〕

教育課程（カリキュラム）の意味、及び教育課程の編成原理・編成手順、学習指導要領との関係、学習指導要領の変遷、カリキュラム・マネジメントの考え方等について理解する。

〔到達目標〕

学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解している。

- 学校において教育課程が有する役割・機能・意義
- 教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法
- 教科・領域・学年をまたいでのカリキュラムの把握及び学校の教育課程全体をマネジメントすることの意義

【授業キーワード】

教育課程、カリキュラム、カリキュラム・マネジメント、高等学校学習指導要領

【授業内容および授業方法】

新しい時代を迎え、資質・能力ベースのカリキュラムを正面に据えて初等中等教育の改革が進められている。これにより、学校におけるカリキュラムは大きく変化してきている。今後は、各学校における教育課程の編成及びカリキュラム・マネジメントが問われてくる。

本講では、学校現場における教員経験を活かしながら、学習指導要領を基準に各学校において編成されるカリキュラムに焦点をあて、教育課程（カリキュラム）の意味・種類、教育課程の編成原理、編成手順、学習指導要領との関係、学習指導要領の変遷、カリキュラム・マネジメントの考え方・進め方等について考察を進めていくものである。

それらの意味を、教育の根本原理やその実践の方法、教師の仕事、教育諸現象ともつなげながら、できるだけ具体的な事例に即してともに考えていくものとする。

受講者によるプレゼンテーション（受講者の資質・能力の育成にも貢献）及び対話形式（ともに考えること）を重視する。

【授業項目】

- 第1回：「ある実践」からカリキュラムのあり方・可能性を考える。
 - 第2回：「教育課程論」の概要（10問クイズを通して）、求められる資質・能力とアクティブ・ラーニング
 - 第3回：いま、なぜ「教育課程」か、その定義とPDCAサイクル
 - 第4回：新学習指導要領「総則」の読み方、カリキュラム・マネジメントの考え方
 - 第5回：学習指導要領の変遷Ⅰー経験カリキュラムー
 - 第6回：学習指導要領の変遷Ⅱー学問中心カリキュラムー
 - 第7回：学習指導要領の変遷Ⅲー人間性中心カリキュラムー
 - 第8回：内容選択の基準と編成の原理
 - 第9回：子どもの発達と教科書
 - 第10回：カリキュラムを支える教育環境とカリキュラム評価の進め方
 - 第11回：カリキュラムの履修スタイル
 - 第12回：教科のカリキュラム
 - 第13回：教科外のカリキュラム
 - 第14回：近年のカリキュラム改革の動向
 - 第15回：諸外国の「カリキュラム」改革
- 定期試験

【授業時間外学習（予習・復習等）】

- 学習効果を上げるため、教科書等の該当箇所を参照し、授業内容に関する予習（事前学習）を90分程度行い、授業内容に関する復習（事後学習）を90分程度行うことが望ましい。（事前には、教科書の、扱う部分について熟読し、授業後は、要点をノートにまとめておく。）
- 各自、分担の内容について、関連文献にもあたりながら、調べ・整理して、プレゼン資料を作成する。（パフォーマンス課題として）

【教科書】

- 田中耕治編著『よくわかる教育課程〔改訂版〕』，ミネルヴァ書房，2018年

【参考書】

- 文科省『高等学校学習指導要領解説・総則編』，東洋館，2019年
 - 文科省『高等学校学習指導要領』，東山書房，2018年
- ※その他，必要に応じて適宜資料を配付する。

【成績の評価方法と評価項目】

- プレゼン資料の作成，及びそのプレゼンの内容全体 40%
- 期末テスト（筆記試験，レポート，まとめのプレゼン） 40%
- 自主コメント，ミニコメントの記入等 20%

【留意事項】

- 毎時間，各自が教師になるという当事者意識をもって参加・参画することが望まれる。
- 話し合いの場に参加し，ともに考えることを重視する。
- 教職・「教職試験」情報などについても，折に触れ紹介していくつもりである。

【備考】

実務経験のある教員等による授業科目